

令和6年度

# 岡山県立博物館協議会

## 第1回 開催要項

- 1 開会
- 2 展示室視察
- 3 議題
  - (1) 令和6年度事業について
    - ア 展覧会
    - イ 教育普及事業
    - ウ 入館状況
  - (2) 令和7年度展覧会計画（案）について
  - (3) 長期展覧会計画（案）について
  - (4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について（令和5年度）
  - (5) その他
    - ・来館者アンケート結果について
- 4 閉会

日 時：令和6年10月1日（火） 13：30～

会 場：岡山県立博物館 講堂

# (1) 令和6年度事業について

## ア 展覧会

令和6年9月30日現在

### ☆テーマ展

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (特別展・テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
4/12～5/6 春季展 25(22)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風の爪あと	☆赤韋威鎧と備前の名刀 岡山の戦国時代 江戸時代の絵画 備前焼
5/10～6/16 夏季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風の爪あと	☆清水宗治VS羽柴秀吉ー備中高松城の戦いー 木喰仏と神像 備前の名刀 備前焼
6/20～7/21 夏季展(2) 32(28)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 暮らしと装い	☆岡山県古代吉備文化財センター開所40周年記念 「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」 備前の名刀 備前焼
7/25～9/1 夏季展(3) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 船といのり(絵馬と盆行事)	☆絵解きー地獄の世界をのぞいてみようー 刀剣・甲冑 備前焼
9/5～10/13 秋季展(1) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 交通ー絵馬に描かれた船ー	☆岡山の至宝ー正宗文庫の輝きー 刀剣 備前焼
10/18～11/24 特別展①・秋季展(2) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗芸能と仮面 (備中神楽・面浄瑠璃)	特別展 「緒方洪庵ーその生涯と郷土岡山ー」
11/29～1/26 冬季展(1) 59(48)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 冬の暮らし (昔の暖房・正月行事)	☆博物館で推し活！ ー学芸員の推しを紹介しますー
1/31～3/16 特別展②・冬季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 雛飾り・郷土玩具(仮)	特別展 「茶碗ー茶の湯にふれるー」
3/20～ 春季展(1) 12～(10～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽(仮)	☆注文打ちー武将のために作られた刀ー 備前焼

## 〈展覧会内容〉

展 示 名	テーマ展「岡山の戦国時代 -赤松氏から宇喜多氏まで-」
期 間	令和6年2月29日(木)～4月7日(日)
趣 旨	戦国時代の岡山では、備前の浦上氏や宇喜多氏、備中の三村氏ら、多くの戦国武将が覇権を争っていた。これまでは、『備前軍記』等の江戸時代の資料を元に語られることが多かったが、近年、文書資料等の発見や、古代吉備文化財センターによる中世城館等総合調査等の様々な成果がある。 本展では、当館が所蔵または寄託を受けている赤松氏と浦上氏・宇喜多氏を中心に関係する資料を展示し、戦国時代を生き抜いていった武将たちについて紹介する。
主要展示資料	県指定重要文化財 赤松満政寄進状 応永 3(1425)年 安養寺蔵(和気町) 市指定重要文化財 宇喜多直家書状 年未詳 西大寺蔵 中国兵乱記 江戸時代 個人蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 3/2(土)、3/16(土)、4/6(土) きまぐれ講座 3/20(水・祝)、3/24(日)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	戦国時代の古文書や江戸時代の軍記物約20点で構成したため、文字が非常に多い展示となった。ただし、できる限り平易な説明や、大きな事件についての補助資料等を置くようにした。次回以降は、関連する武器・武具なども含めて展示を構成するよう心掛けたい。

事 業 名	テーマ展「赤韋威鎧と備前の名刀」
期 間	令和6年4月12日(金)～5月6日(日)
趣 旨	国宝「赤韋威鎧」は、平安時代の後半につくられた大鎧で、赤韋威の大鎧は『平家物語』などの合戦絵巻にも描かれ、当時流行していた様子がうかがえる。本品以外に現存するものはなく、大鎧としても現存する中では最古級になり、制作された当初の姿をよく留める貴重な事例として知られている。 本展では、再開館1周年を記念し、館蔵の名刀6口とともに展示する。
主要展示資料	国宝 赤韋威鎧 岡山県立博物館蔵 重要文化財 太刀 銘 則宗 岡山県立博物館蔵 重要文化財 太刀 銘 長光 岡山県立博物館蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 4/13(土)、4/27(土)、5/4(土)
備 考	入館料 大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	「赤韋威鎧」や「太刀 銘 則宗」をはじめ、岡山県立博物館の代表的な所蔵品を紹介する展示となった。ただし、広報が十分に行き渡らず、入館者の数が他の展示と比べて大幅に多いわけではなかった。今後、どのような形で作品の重要性を伝えていくか考える必要がある。

事業名	テーマ展「清水宗治 VS 羽柴秀吉 一備中高松城の戦い」
期間	令和6年5月10日(金)～6月16日(日)
趣旨	今から約440年前の天正10(1582)年4月から6月にかけて、備中高松城を巡って、日本の歴史に残る戦いが繰り広げられた。 6月2日に本能寺の変が起こり、その直後に和睦が取り交わされたが、清水宗治とその兄、毛利氏の家臣は切腹をして亡くなった。 本展では、清水宗治と羽柴秀吉に関する資料を中心に展示し、当時の戦いについて紹介する。
主要展示資料	県指定重要文化財 大太刀 銘 備州長船秀幸 吉備津神社蔵(伝清水宗治奉納) 県指定重要文化財 宝福寺寺領検地帳 宝福寺蔵 清水宗治書状 吉備津神社蔵 羽柴秀吉掟書 龍昌院蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 5/18(土)、5/25(土)、6/8(土)、6/15(土) きまぐれ講座 6/1(土)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	休館前にもニーズがあったテーマであり、加えて6月2日の宗治祭が開かれることから企画した。 吉備津神社本殿再建600年が来年のため、神社サイドも快くお貸しいただくことができた。 展示解説を4回、きまぐれ講座を1回実施した。多くの方に来ていただけたが、関連行事を担当する1名で実施するのは、体力・気力ともに厳しかった。

事業名	テーマ展「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」
期間	令和6年6月20日(木)～7月21日(日)
趣旨	岡山県はかつて吉備と呼ばれ、県内には約2万か所の遺跡が残されている。岡山県古代吉備文化財センターは県内における埋蔵文化財を保護・活用するため、この40年間で436か所において発掘調査を実施してきた。 本展では、これまでの発掘調査成果の中から、近年の発掘調査で見つかった出土品を展示し、人々の暮らしやまつり、墓や城などの特徴に迫り、吉備から岡山への移り変わりについて紹介する。
主要展示資料	県指定重要文化財 銅鐸 神明遺跡出土(総社市) 勾玉・小玉 城殿山遺跡出土(浅口市) 市指定重要文化財 単鳳環頭大刀柄頭 こうもり塚古墳出土(総社市) 陶棺 桑山南1号噴出土(津山市)
関連行事等	古代吉備文化財センター職員による展示解説 6/22(土)、7/6(土) ジュニア解説員(県内の中高生)による展示解説 7/13(土)、7/14(日)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	展示では最新の調査成果を広く公開することができた。古代吉備文化財センターとの連携事業のため、調整や連絡に多くの時間を要した。また、資料点数が多く、展示や搬出なども煩雑になった。そうした課題はあるが、埋蔵文化財調査によって得られた成果を知ってもらいたい機会であり、今後も、こうした展示を行っていきたい。

事業名	テーマ展「絵解き ー地獄の世界をのぞいてみようー」
期間	令和6年7月25日(木)～9月1日(日)
趣旨	絵解きとは、絵の内容を人々に解説することである。江戸時代には、比丘尼と呼ばれる女性宗教者たちが地獄の様子が描かれた絵画を絵解きし、その恐ろしさや、救われるための方法などを解説した。 本展では、国の重要文化財に指定されている十王図や、観心十界曼荼羅図など絵解きに使われた絵画を中心に、地獄の様子を紹介する。
主要展示資料	重要文化財 十王像 宝福寺蔵 観心十界曼荼羅図 安養寺蔵 冥土の旅絵巻 倉敷市蔵
関連行事等	講演会「あの世を絵解くー天国・地獄・死後の世界ー」 8/24(土) 講師 木下 浩氏 (岡山民俗学会理事・長島愛生園歴史館学芸員) 学芸員による展示解説 8/3(土)、8/17(土)、8/31(土) (31日は台風による休館のため中止)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	会期が夏休みのため、作品解説は子ども向けに平易な日本語で執筆し、ロビーには双六・輪投げ・顔出しパネルなどを設置したところ、その他の展覧会と比べ、子ども連れの来館者が多く、内容もわかりやすいと好評だった。今回は絵画資料を中心に展示したが、立体物がほとんど無かったため、次回以降は彫刻作品も積極的に展示したい。

事業名	テーマ展「岡山の至宝 ー正宗文庫の輝きー」
期間	令和6年9月5日(木)～10月13日(日)
趣旨	正宗文庫は、和気郡伊里村(現備前市穂浪)出身の国文学者・歌人であった正宗敦夫(明治14年(1881)生まれ)によって創設され、敦夫が生涯を通して蒐集した7千点・2万冊にも及ぶ貴重な書物等が収められている。 本展では、昨年度に引き続き一般財団法人正宗文庫、人間文化研究機構国文学研究資料館、就実大学人文科学部の協力を得て、正宗文庫が所蔵する資料を通して岡山の歴史と文化を紹介する。
主要展示資料	吉備歌人伝資料 明治30-31(1897-1898)年写 西大寺縁起絵巻 断簡 寛文元(1660)年写 夢二雑文歌稿 昭和5(1930)年写
関連行事等	ミニ講座+ショートギャラリートーク 9/8(日) 専門家と当館学芸員による展示解説 9/14(土)、9/21(土)、9/28(土) 10/5(土)、10/12(土) 関連行事 正宗文庫セミナー 9/7(土)、10/13(日)
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	昨年度に引き続いて開催した正宗文庫に関する展示で、より魅力的なものになるような工夫を考えた。1つは、キャラクター「あつおさん」「女王」による解説である。リーフレットの説明を、よりわかりやすくかみ砕いて、10数カ所に設置した。また、展示室に入ってきた際に、テーマ展の概要や正宗敦夫についてすぐにわかるような会場設営の工夫をした。さらに、毎週1回専門家によるギャラリートークを実施した。会期中のため、成果については不明の点もあるが、地元にある未指定文化財の調査及び展示という点においても、意義あるものにできるようにしたい。

事業名	特別展「緒方洪庵 -その生涯と郷土岡山-」	
期間	令和6年10月18日(金)～11月24日(日)	
趣旨	<p>緒方洪庵(1810-1863)は備中足守(岡山市北区足守)に生まれ、大坂・江戸・長崎で学問を修めたのち、医者として、学者として活躍した。また、当時の日本を代表する私塾である「適々斎塾(適塾)」を大坂に開き、福沢諭吉ら全国から適塾に集った者を、明治時代の日本をリードする人材や、医療で地域の人々を救う人材に育てた。</p> <p>本展では、洪庵没後160年を過ぎたいま、洪庵自筆の書状や書画などを中心に展示することで、洪庵の生涯と業績を紹介するとともに、県下に残された洪庵ゆかりの資料などもあわせて展示し、洪庵と郷土岡山とのつながりにも迫る。</p>	
主要展示資料	適塾塾生等級別名簿 緒方洪庵和歌貼交屏風 種痘免状	大阪大学適塾記念センター蔵 大阪大学適塾記念センター蔵 個人蔵
関連行事等	①記念講演「緒方洪庵が伝えたもの -その活動と精神-」 10/27(日) 講師 村田路人氏(大阪大学名誉教授・神戸女子大学教授) ②記念講演「なぜ私が緒方洪庵を書こうと思ったのか -洪庵の業績とその魅力-」 11/17(日) 講師 海堂尊氏(作家・医師) ③学芸員による展示解説 10/19(土)、11/2(土)、11/23(土・祝)	
備考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料	会場 第3・4展示室

事業名	テーマ展「博物館で推し活！ -学芸員の推しを紹介します-」	
期間	令和6年11月29日(金)～令和7年1月26日(日)	
趣旨	<p>岡山県立博物館には、古代から近世にかけての岡山県内の歴史・文化に関して、6つの分野(歴史、考古、焼物、美術、工芸、民俗)の学芸員が在籍しており、日頃より調査・研究を行い、その成果の一端を、テーマ展や特別展等において公開してきた。</p> <p>本展では、学芸課職員が一つのフロアに「推し」たい資料を集めて展示し、学芸員の「推し」を通して、岡山の歴史・文化について紹介する。</p>	
主要展示資料	県指定重要文化財 足利尊氏御判御教書 岡山県立博物館 県指定重要文化財 木造阿弥陀如来坐像 和気町安養寺	
関連行事等	学芸員による展示解説	
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料	会場 第4展示室

事業名	特別展「茶碗 一茶の湯にふれる」
期間	令和7年1月31日(金)～3月16日(日)
趣旨	<p>茶の湯では日本文化が大切に伝えられ、茶席での振る舞いや作法、そして扱う道具には、その魅力がよく表れているといわれる。茶席には様々な道具が登場するが、なかでも茶碗はお茶を点てるときや飲むときに実際にふれるものであり、もっとも身近に感じる道具である。</p> <p>岡山県では、備前焼や虫明焼など茶の湯と関わりが深いやきものを作り続けてきた。そのため、やきものに関心を持つ人が多い地域でもあるが、優品とされる茶道具の所蔵先は都市部に多く、県内でまとめて見ることは難しくなっている。</p> <p>本展では、全国各地から協力を得て一堂に会した優品を通じて、最新の知見を取り入れながら茶碗の歴史と魅力を紹介する。</p>
主要展示資料	<p>国宝 志野茶碗 銘卯花壺 16-17世紀 三井記念美術館</p> <p>重要文化財 油滴天目 12-13世紀 九州国立博物館</p> <p>重要文化財 青磁輪花茶碗 銘馬蝗絆 13世紀 東京国立博物館</p> <p>重要文化財 黒樂茶碗 銘ムキ栗 長次郎作 16世紀 国(文化庁保管)</p>
関連行事等	<p>(1)茶碗についての座談会</p> <p>(2)呈茶会</p> <p>(3)学芸員による展示解説</p> <p>(4)ふれる・まわせる名茶碗</p>
備考	入館料 一般450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	テーマ展「注文打ち～武将のために作られた刀～」
期間	令和7年3月20日(木)～5月6日(日)
趣旨	<p>室町時代後期、日本の各地で戦乱が起こるようになると、「数打物(かずうちもの)」と呼ばれる量産品の日本刀が出回るようになった。一方、注文を受けた刀鍛冶が念入りに鍛えた作は「注文打(ちゅうもんうち)」として区別され、茎に注文主の名前を刻んでいることがその特徴となっている。</p> <p>戦国期の岡山でも、清光や祐定など当時活躍していた長船派の刀鍛冶を中心に、武将やその家臣のための「注文打」、いわゆるオーダーメイドによる日本刀の作成が行われていた。</p> <p>本展では、備前長船鍛冶による注文打の作品を中心に展示し、刀鍛冶と武将達との関係を紹介する。</p>
主要展示資料	<p>刀 銘 備前国長船孫右衛門尉清光為日笠次郎兵衛尉頼房作之/永禄十年八月吉日 岡山県立博物館蔵</p> <p>短刀 銘 備前国住長船彦左衛門尉祐定為日笠左京助頼家作之/元亀四年八月吉日 個人蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説
備考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室

## イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期間	令和6年8月7日(水)～8月8日(木)
概要等	<p>県内の中高校生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。</p> <p>&lt;内容&gt; 2日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。</p> <p>1日目 開講式、施設見学、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器)、写真の撮影体験</p> <p>2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、民俗資料)、閉講式</p>
参加者数	中学生 7名 高校生 19名 計 26名

事業名	館内授業・出前授業
期間	通年(令和6年4月～令和7年3月)
概要等	<p>県内の小中高校生等が、博物館で実物の文化財に触れたり展示を見学したりして学習する。また、学芸員が学校に出向いたり、古墳等の史跡見学に同行したりして授業を行う。</p> <p>&lt;授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)&gt;</p> <p>歴史 吉備の古墳の世界</p> <p>民俗 体験! 昔のくらし</p> <p>美術 備前焼を知ろう</p>
実施校数	館内授業 14校(小6、中3、高2、大3) 出前授業 2校 ※9月30日現在

事業名	博物館講座
期間	令和6年6月9日(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日)
概要等	<p>第一線で活躍する研究者と当館学芸員による連続講座を実施。(生涯学習大学連携講座)</p> <p>4日間4講座(1講座90分)、定員120名</p> <p>第1回 「新発見の木喰仏と県内の神像」 講師：岡崎有紀(学芸員)</p> <p>第2回 「中国山地の農耕習俗について」 講師：松井今日子(学芸員)</p> <p>第3回 「ミュージアムにおける茶道具の展示について」 講師：横山 梓(東京国立博物館 主任研究員)</p> <p>第4回 「描かれた武器・武具 -酒呑童子討伐に挑む源頼光と尻鞘の関係を中心に-」 講師：馬野琴巳(学芸員)</p>
受講者数	85名



事業名	中学校職場体験
期間	令和6年11月
概要等	中学2年生を対象にした職場体験の受け入れ ＜内容＞ 学芸業務や受付・看視等の仕事を体験
実績	受入校 6 校 参加生徒 現在調整中 ※ 9月30日現在

事業名	博物館実習
期間	令和6年8月21日(水)～25日(日) *博物館見学実習は通年(令和6年4月～令和7年3月)
概要等	博物館法に規定する学芸員資格の習得を希望する大学生を対象に、博物館において実習の機会を提供し、人材育成に資するとともに博物館活動の普及を図る。 ＜内容＞ ①講義実習(3日間) 各分野の文化財の取り扱いを通してその特性を学ぶ ②支援実習(2日間) 博物館の行事や展示替え作業を体験して実務を学ぶ ③博物館見学実習(1日) 博物館施設の見学
実績	参加者 博物館実習14名 博物館見学実習3校75名

事業名	教員のための博物館の日 in 岡山県立博物館 2024
期間	令和6年8月2日(金)
概要等	県内の教員を対象に、授業に利用できる資料の紹介や、展示室の案内、さらには博物館を利用した授業づくりについて紹介することにより、学校教育における社会教育施設の活用促進を図る。 ＜内容＞ ・館内を巡り、授業に利用可能な資料を紹介 ・博物館を利用した授業の事例を紹介 ・授業づくりの相談 など
実績	参加者 24 名

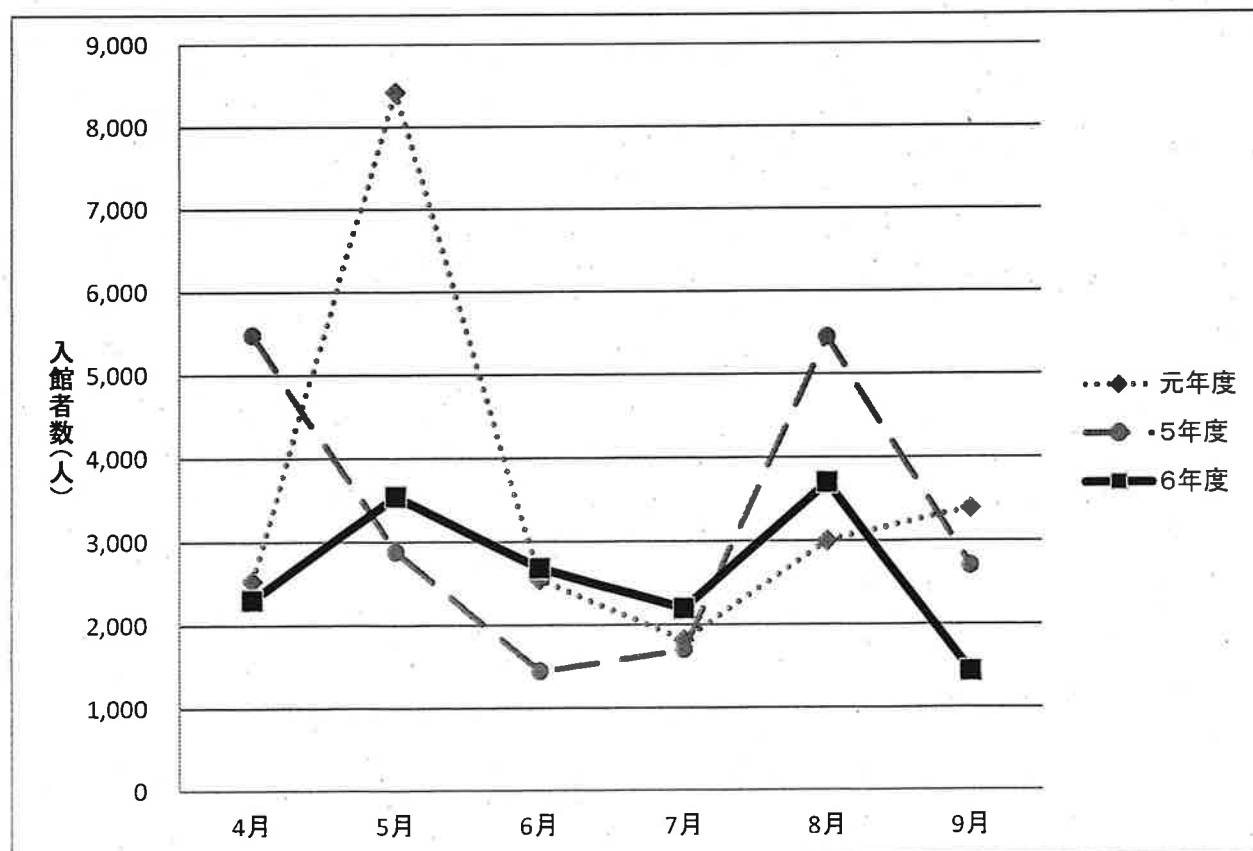
## ウ 入館状況

### 月別入館者数

令和6年9月23日現在

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	年計
元年度	特別展	-	-	-	-	-	-	-	21,963
	特別展以外	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	21,710	32,229
	計	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	21,710	54,192
5年度	特別展	-	-	-	553	5,449	1,441	7,443	11,911
	特別展以外	5,478	2,883	1,447	1,149	-	1,264	12,221	23,480
	計	5,478	2,883	1,447	1,702	5,449	2,705	19,664	35,391
6年度	特別展	-	-	-	-	-	-	-	-
	特別展以外	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,437	15,858	15,858
	計	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,437	15,858	15,858



## (2) 令和7年度展覧会計画(案)について

令和6年9月30日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
3/20～5/6 春季展(1) 48(42)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	テーマ展 「注文打ち～武将のために作られた刀～」 備前焼
5/10～6/29 初夏展 51(44)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	テーマ展「江戸時代の人々(仮)」 刀剣 備前焼
7/3～8/24 夏季展 52(45)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	テーマ展「備前焼(仮)」 刀剣
8/28～10/5 秋季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	テーマ展「吉備津神社(仮)」 刀剣 備前焼
10/10～11/24 特別展①・秋季展(2) 46(40)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	花ござ —心おどるい草の世界— (仮)
11/28～1/18 特別展②・冬季展(1) 52(42)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	岡山の文化と出会う —岡山県立博物館の収蔵品を中心に (美術・工芸編)— (仮)
1/23～3/15 特別展②・冬季展(2) 52(45)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	岡山の文化と出会う —岡山県立博物館の収蔵品を中心に (美術・工芸編)— (仮)
3/19～ 春季展 13～(11～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史	テーマ展「彫刻・仏像」(仮) 刀剣 備前焼

〈特別展内容〉

事業名	特別展「花ござー心踊る い草の世界ー」(仮)		
期間	令和7年10月10日(金)～11月24日(月・祝)		
趣旨	<p>岡山県南部では、江戸時代から昭和時代後半にかけ、い草の栽培と畳表の生産が盛んであった。明治期にい草を鮮やかに染めて緻密に織り込み、ペルシャ絨毯のような美しい仕上がりに加工する技術が岡山の磯崎眠亀によって発明されると、岡山産の「花ござ」は欧米の万国博覧会でたびたび受賞し、国の重要輸出品の一つへと成長した。</p> <p>令和7年に日本で万国博覧会が開催されることにちなみ、本展では岡山がかつて世界に誇った産物である「花ござ」を取り上げ、歴史、デザインや製作技術の変遷、い草栽培で活気づいた県南部の当時の様相などを紹介する。また日本のい草にまつわる歴史資料や他県の花ござをあわせて展示し、岡山県の産地としての特徴を明らかにする。</p>		
主要展示資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法隆寺龍鬘苴(複製)</li> <li>・備中早島畳表売買通用手形並びに版木</li> <li>・鋸歯紋輪郭継紋様錦苴苴(コロンブス世界博覧会授賞)</li> <li>・捺染花筵</li> <li>・芹沢銈介図案集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奈良時代(現代)</li> <li>江戸時代</li> <li>明治時代</li> <li>近代</li> <li>昭和時代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県立歴史博物館</li> <li>早島町指定重要文化財 個人蔵</li> <li>岡山県立博物館</li> <li>倉敷市教育委員会</li> <li>個人蔵</li> </ul>
関連行事等	<p>(1) 記念講演会</p> <p>(2) 学芸員による展示解説(大人向け・子ども向けをそれぞれ開催予定)</p> <p>(3) ワークショップ(コースター作りなど)</p> <p>(4) 織機の実演会(手織り機、自動織機)</p>		
備考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室		

事業名	特別展「岡山の文化と出会うー岡山県立博物館の収蔵品を中心に(美術・工芸編)ー」(仮)		
期間	令和7年11月28日(金)～令和8年3月15日(日) *I期・II期に分けて展示する予定		
趣旨	<p>令和7年に岡山県立博物館は、設立懇談会結成(昭和41年2月)から60年、また開館から55年目を迎え、これまでに収集してきた県内ゆかりの資料は、その量・質ともかなり充実してきた。本展では、館蔵品や寄託品を中心に、館外に伝わる岡山ゆかりの文化財も交えながら、刀剣・甲冑・金工品・絵画・彫刻分野における優品を通して、岡山の豊かな文化を紹介する。</p> <p>美術分野では、成熟した宗教文化の様相を示す仏画・仏像や工芸品、そして四条派や文人画を中心に岡山の近世絵画を展覧する。工芸分野では、備前の誇る名刀や、岡山ゆかりの甲冑、そして近代に活躍した正阿弥勝義などの作品を紹介する。</p>		
主要展示資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県指定重要文化財 阿弥陀如来坐像</li> <li>・重要文化財 両界曼荼羅図</li> <li>・重要文化財 太刀 銘 則宗</li> <li>・重要文化財 色々威甲冑</li> <li>・重要文化財 木造獅子</li> <li>・山水図 岡本豊彦筆</li> <li>・鶏香炉 正阿弥勝義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉時代</li> <li>鎌倉時代</li> <li>鎌倉時代初期</li> <li>室町時代</li> <li>平安時代</li> <li>江戸時代</li> <li>明治20年代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館蔵</li> <li>寶光寺蔵</li> <li>館蔵</li> <li>豊原北島神社蔵</li> <li>高野神社蔵</li> <li>館蔵</li> <li>館蔵</li> </ul>
関連行事等	<p>(1) 記念講演会</p> <p>(2) 学芸員による展示解説</p> <p>(3) アンケート企画ーみんなでつくろう、県立博物館の優品グッズー</p> <p>(4) 館蔵品クイズ!</p>		
備考	入館料 一般450円、65歳以上220円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室		

(3) 長期展覧会計画(案)について

年 度		特 別 展	
6	2024	緒方洪庵 —その生涯と郷土岡山—	茶碗 —茶の湯にふれる—
7	2025	花ござ —心おどる い草の世界— (仮)	岡山の文化と出会う —岡山県立博物館の収蔵品を中心に (美術・工芸編)— (仮)
8	2026	岡山の文化と出会う —岡山県立博物館の収蔵品を中心に (歴史・民俗編)— (仮)	調整中

## (4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について

### 中期目標の達成状況評価(令和5年度)

- (1) 評価の時期 翌年度初めに実施  
 (2) 評価者 館全体で評価  
 (3) 評価区分 次の1～5段階で実施

評価区分	内 容
5	目標水準を大きく上回った。 140%以上
4	目標水準を上回った。 110%以上 140%未満
3	概ね目標水準である。 90%以上 110%未満
2	目標水準を下回った。 60%以上 90%未満
1	目標水準を大きく下回った。 60%未満

#### (4) 結果の公表

評価結果は、「岡山県立博物館協議会」において報告するとともに、ホームページで公表する。

#### <参考> 博物館法第9条

博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

### 令和5年度の評価

項 目	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R5
1 資料の収集と保存・活用	3	3	3	3	3	2	3
2 調 査 ・ 研 究	3	3	3	3	3	3	3
3 展 示	3	4	3	3	3	3	2
4 教育普及・学校教育との連携	2	3	3	3	3	3	2
5 県民参加の協働運営	3	3	3	3	3	3	3
6 施設の管理・運営	3	3	3	3	3	3	3
7 組 織 ・ 人 員	1	3	3	3	3	2	4
総 合 評 価	3	3	3	3	3	3	3

#### ■展示 R元：3 → R5：2

・令和5年度の入館者数は、年間で35,391人であり、目標の5万人を大幅に下回った。

#### ■教育普及・学校教育との連携 R元：3 → R5：2

・休館前に比べて館内授業・出前授業ともに大きく減少した。

#### 評価結果を踏まえた今後の課題と施策への反映

##### 展示の充実

- 1 時代のニーズを踏まえ、幅広い人に満足いただけるわかりやすい展示テーマの設定
- 2 学芸員による対象別講座の開催や、実物の文化財に触れる体験ができる企画等の実施

##### 学校教育との連携強化

- 1 博物館における教育普及事業についてのリーフレットを作成し、全学校に配付
- 2 学校教育での博物館の活用について実際に体験してもらうための教員向け説明会を開催

# 評価シート

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和5年度 実施結果	評価
資料収集と 保存・活用	資料の購入	資料の購入件数	必要に応じ 予算措置	1件/年	—
	寄附資料の受け入れ	新規寄附資料の受け 入れ件数	随時申し出に に対応	16件/年	—
	寄託資料の受け入れ	新規寄託資料の受け 入れ件数	随時申し出に に対応	6件/年	—
	資料の適切な保管	収蔵庫等の定期点検 回数	12回/年	12回/年	3
	展示室の資料保存環 境の点検	展示室等の定期点検 回数	50回/年	50回/年	3
	収蔵スペース確保の 検討	収蔵スペース確保の 検討	随時	随時	3
		整理・整頓	4回/年	4回/年	
	所蔵資料の補修	所蔵資料の修復 点数	1点/年	0点/年	1
資料の活用	収蔵資料展示点数	2,000点/年	2,580点/年	4	
	特別観覧利用件数	100件/年	70件/年	2	
平均評価					3
調査研究	調査研究活動の 強化	各学芸員の調査テー マの設定	6件/年 (各学芸員1テーマ)	6件/年 (各学芸員1テーマ)	3
	調査研究成果の 公表	研究報告の発刊	1回/年	1回/年	3
		年報の発刊	1回/年	R4休館中のた め作成せず	—
		博物館だよりの 発刊	1回/年	1回/年	3
		博物館講座の開催	6回/年	4回/年	2
	外部研究機関との 連携	共同研究テーマ数	2件/年	1件/年	1
	地域における資料保 存への支援	支援件数	2件/年	2件/年	3
平均評価					3

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和5年度 実施結果	評価
展 示	特別展	実施回数	2回/年	2回/年	3
	テーマ展	実施回数	随時	7回/年	—
	平常展	常設展示	通年	通年	—
	各展共通項目	総入館者数	50,000人/年	35,391人/年	2
		入館者の満足度	90%以上	84%	3
		記念講演会	1回以上/1展覧会	1回以上/1展覧会	3
		実演等	1回以上/1展覧会	1回以上/1展覧会	3
		展示解説	4回以上/1展覧会	3回以上/1展覧会	2
	キャプション 解説シート	改善 30枚	10枚	1	
	多言語表記 (名称・解説等)	英語・中国語・韓 国語表記	スマホ等の翻訳ア プリで対応		
平均評価					2
教育普及活動 学校教育との 連携	博物館講座	開設講座数	4講座(1班)/年	4講座(1班)/年	3
		参加受講者数	100人/年	56人/年	1
	体験学習	参加体験型資料の充 実	令和9年度末 40点	令和5年度末 39点	3
	館内授業	実施学校数	50校/年	35校/年	2
		受講児童生徒数	2,500人/年	1,141人/年	1
	出前講座	実施学校数	15校/年	7校/年	1
		受講児童生徒数	1,000人/年	485人/年	1
	展示解説	聴講者数	20人/1解説日	54人/1解説日	5
	博物館実習	受入学生数	20人/年	10人/年	1
	中学生職場体験	受入学生数	10校/年	7校/年	2
教職員研修	連携事業の実施回数	2回/年	1回/年	1	
ジュニア学芸員講座	受入生徒数	20人/年	19人/年	3	
オンライン講座	コンテンツ数	5コンテンツ/年	0コンテンツ/年	1	



目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和5年度 実施結果	評価
教育普及活動 学校教育との 連携	大学教育との連携	受講する学生数	100人/年	69人/年	2
	外部への講師派遣	派遣回数	15回/年	34回/年	5
平均評価					2
県民参加の 協働運営	広報活動の充実	記者クラブへの 資料提供件数	30件/年	20件/年	2
		マスコミ取材件数 (新聞掲載件数)	250件/年	86件/年	1
	アンケートの実施	アンケートの回収率	10%/年	9%/年	3
	ホームページ等の充 実	HPアクセス数	200,000件/年	306,000件/年	5
		SNSの更新頻度	週2回以上	週4回	5
	岡山県立博物館友の 会の会員数の増加と 事業の充実	友の会会員数	400人/年	296人/年	2
		会員の継続率	前年会員の90%	前年会員の69%	2
		友の会事業実施回数	40回以上	21回	1
		特別展等観覧者率	4.0%	1.6%	1
		支援ボランティア	10回/年 30人以上/年	10回/年 50人以上/年	3 5
	地域社会と協働の 展覧会の開催	共催団体数	1展覧会2団体 以上	1展覧会2団体	3
		連携博物館数	2博物館/年	2博物館/年	3
	博物館協議会等の意 見の反映	協議会開催回数	2回/年	2回/年	3
		外部評価の実施	1回/年	R4休館中のた め実施せず	—
	岡山カルチャーゾーン 連絡協議会との連携	連携(加盟)施設数 (県立博物館を除く)	11施設	11施設	3
	平均評価				

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和5年度 実施結果	評価
施設の整備 管理	安全な施設の維持 管理	個別施設計画	緊急性の高い事 案から着手	緊急性の高い事 案から着手	—
	外国人来館者への 配慮	案内板の多言語表記 の充実	中国語・韓国語 への対応	施設名を入口に 掲示	—
	危機管理体制の強化	来館者事故数	0件/年	0件/年	3
		防災訓練の実施	年2回開催	年2回開催	3
		安全衛生会議の開催	年3回開催	年3回開催	3
利用環境の向上	入館者の満足度	90%以上	81%	3	
平均評価					3
組織・人員	学芸員の資質向上	研修会への参加人数	10件/年	12件/年	4
平均評価					4
総合評価					3

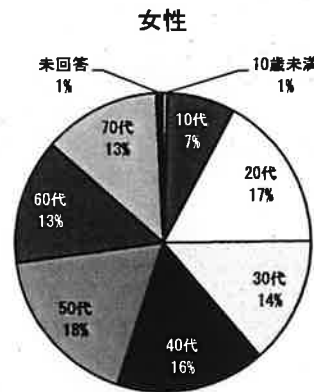
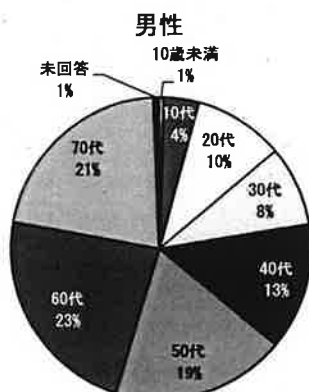
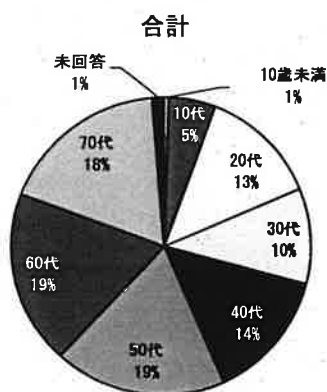
# 令和5年度 来館者アンケート集計結果

## ◆アンケート回収率

展覧会名	会期	入館者数	アンケート数	回収率
再開館記念展 名刀 福岡一文字の光彩	4/1 ~ 5/7	6,866	1,044	15.2%
美作勝山城の実態に迫る	5/11 ~ 6/18	2,504	210	8.4%
涼をよぶ岡山の伝統工芸—花ござと撫川うちわ—	6/22 ~ 7/23	1,587	185	11.7%
【特別展】慈悲のほとけ—観音と古寺の名宝—	7/28 ~ 9/3	7,443	679	9.1%
正宗教夫と正宗文庫	9/9 ~ 10/15	2,021	141	7.0%
【特別展】醸す—自然と技術が育んだ岡山のお酒—	10/20 ~ 12/3	4,468	326	7.3%
八幡大塚古墳と児島屯倉	12/8 ~ 1/14	4,344	194	4.5%
岡山藩主祈りの寺 常住寺の寺室	1/18 ~ 2/25	2,554	194	7.6%
岡山の戦国時代—赤松氏から宇喜多氏まで—	2/29 ~ 3/31(4/7)	3,604	199	5.5%
合計		35,391	3,172	9.0%

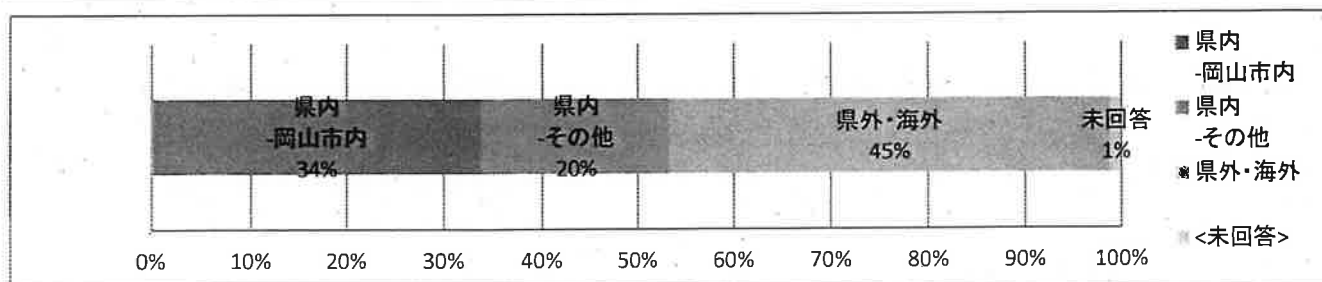
## ◆年齢構成

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答	性別合計
男性	7	51	132	117	186	255	316	294	8	1,366
女性	8	105	241	197	232	253	193	182	10	1,421
未回答	2	7	41	16	33	81	90	91	24	385
合計	17	163	414	330	451	589	599	567	42	3,172



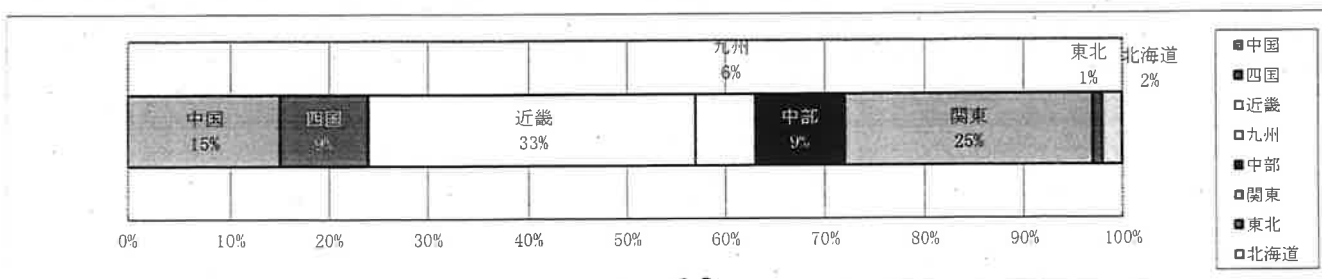
## ◆住所地一覧

住所地	県内 -岡山市内	県内 -その他	県外・海外	未回答	合計
来館者数	1,072	619	1,443	38	3,172



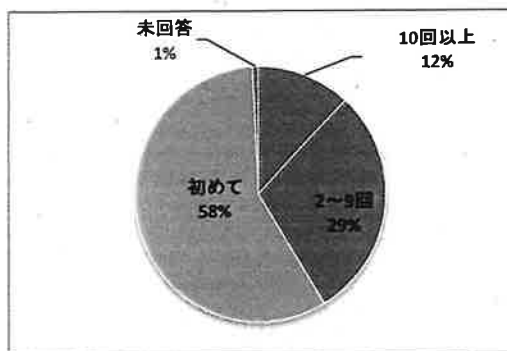
## ◆県外地方別一覧

地方	中国	四国	近畿	九州	中部	関東	東北	北海道	合計
来館者数	205	121	472	91	131	361	14	29	1,424



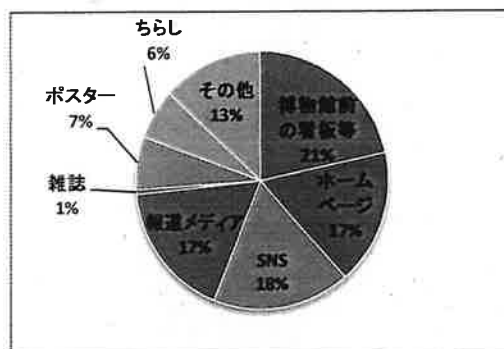
### ◆当館への来館回数

来館回数	回答数
10回以上	380
2～9回	930
初めて	1,838
未回答	24
合計	3,172



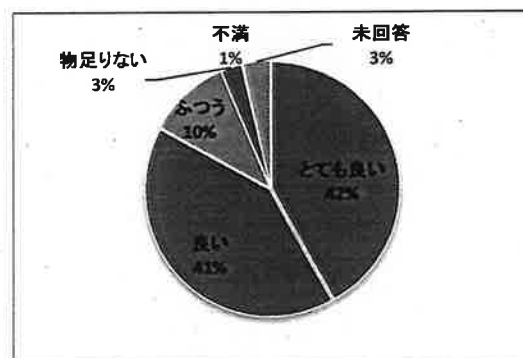
### ◆この展覧会を何で知ったか

広報媒体	回答数
博物館前の看板等	750
ホームページ	591
SNS	614
報道メディア	600
雑誌	21
ポスター	232
ちらし	220
その他	456
合計	3,484



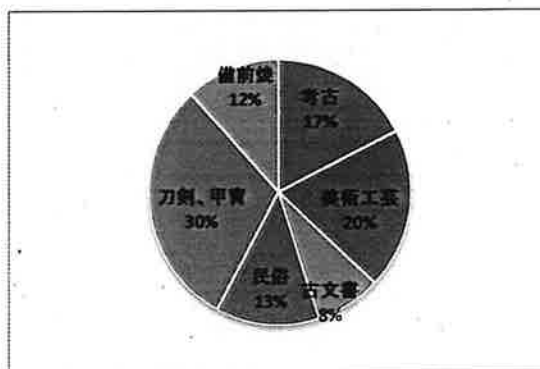
### ◆今回の展覧会についての感想

感想	回答数
とても良い	1,331
良い	1,302
ふつう	336
物足りない	84
不満	7
未回答	112
合計	3,172



### ◆今後どのような展覧会を希望するか

希望分野	回答数
考古	747
美術工芸	841
古文書	340
民俗	550
刀剣、甲冑	1,304
備前焼	501
合計	4,283



### <博物館への意見>

- ・子ども向けの物がもっと充実すると良いなと思いました。
- ・もっと学芸員さんの説明の回数が多いとうれしいです。
- ・撮影OKの展示を増やしてほしいです。
- ・気まぐれ講座、とてもわかりやすく良かったです。
- ・2Fに椅子が多く設置されていて、休憩には好都合だが、少しスペース的にもったいない気がします。

## 岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和5年2月5日～令和7年2月4日）

令和6年10月1日現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	藤原 陽子	学校教育関係者	瀬戸内市立国府小学校長	R 4. 5	
2	忠 政 勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻 田 詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	栗 原 宏之	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 5. 4	
5	明 楽 香 織	"	NPO法人らんたん職員	R 5. 2	
6	美 咲 美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	池 田 千 鶴	学識経験者	岡山情報文化研究所 マチのプランナー 上席研究員	R 3. 2	
8	岡 野 英 美	"	NPO法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	岡 本 隆 明	"	(株) 山方永寿堂代表取締役会長	H23. 2	
10	光 本 順	"	岡山大学学術研究院社会文化科学学域 教授	H26. 7	
11	三 田 智 子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎 晃一朗	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	内 田 章 文	"	RSK山陽放送(株) 取締役 総務局長	R 3. 2	
14	岡 田 智 美	"	(株) 山陽新聞社編集局文化部長	R 5. 2	
15	鳥 井 良 輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

## 岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日  
岡山県条例第47号〕

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

## 岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日  
岡山県教育委員会規則第13号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例(昭和46年岡山県条例第47号)第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議(以下「会議」という。)に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員(以下「委員」という。)の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

## 職 員 一 覧

### 教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	浜原浩司	

### 岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	細 川 誠	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長	間 野 良 一
	副 参 事	國 定 優 次
	主 任	上 岡 義 貴
	主 事	荊 木 淳
学 芸 課	学芸員(副参事)	重 根 弘 和
	学 芸 員	岡 崎 有 紀
	学 芸 員	松 井 今 日 子
	学 芸 員	平 田 良 行
	学 芸 員	馬 野 琴 巳
	主 事	宇 垣 匡 雅